

第7回 やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議
議事要旨

日 時：平成30年3月29日（木） 10：00～11：50

場 所：八代市鏡支所3階 大会議室

■やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議 委員（敬称略）

八代市（会長）	副市長 田中 浩二
八代市市政協力員協議会	会長 徳田 武治
八代市商工会	会長 黒木 計
八代地域農業協同組合	代表理事副組合長 梅田 文夫（代理出席）
八代地域農業協同組合	女性部長 澤村 雅代
八代森林組合	代表理事組合長 西坂 栄樹
一般社団法人DMOやつしろ	代表理事 神園 喜八郎
熊本県県南広域本部	総務部長 内藤 美恵
中九州短期大学	学務部長 教授 川井 健次
連合熊本県南地域協議会	事務局長 網代 博明
株式会社エフエムやつしろ	代表取締役 多田 満
一般社団法人子ども・子育てあいねっと八代	代表理事 澤井 美香

（欠席）

八代商工会議所	会頭 松木 喜一
八代漁業協同組合	代表理事組合長 宮本 義孝
八代市金融協会	代表 横瀬 英夫

<配布資料>

会議次第、出席者名簿、席次表

資料1 八代市総合戦略の効果検証の進め方について

資料2 平成29年度地方創生推進交付金事業及び地方創生拠点整備交付金事業に係る
効果検証

1. 開会

2. 説明

(1) 八代市総合戦略の効果検証の進め方について

- ・資料1 説明（事務局）
- ・本資料は、「総合戦略」と「地方創生交付金事業」の効果検証について、流れを示したもの。

(2) 平成29年度地方創生加速化交付金及び地方創生推進交付金事業の効果検証について

- ・資料2 説明（事務局）
- ・本資料は、平成29年度に国の交付金を活用して実施した3つの事業について、行政内部で各事業の効果検証を行い、事業実施による成果や課題、それらを踏まえた今後の事業の方針について取りまとめたもの。
- ・本日の会議は、委員の皆様へ交付金事業についてご理解を深めていただくため、事業に関する質疑や意見交換を行う。その上で後日、事業評価を賜りたい。
- ・なお、委員の皆様へ行っていただく事業評価は外部検証結果として取りまとめ、本資料に掲載のうえ、市ホームページ等での公表を行う予定。

— 意見交換 —

○委員：DMOの立場から、今後の展望について少しお話しする。平成30年度においては、本町アーケード内に「くまなんスクエア」という、熊本市の鶴屋百貨店1階にある「くまモンスクエア」の八代版のようなものを設置予定であり、6月までにはオープンができる見込みである。また、市役所の前の「こいこい通り」にくまモンのフィギアを7体ほど設置し、その動線の先に「くまなんスクエア」があるという流れを作る。この取組については、平成32年度には200隻強のクルーズ船の寄港が見込まれる中、クルーズ船客の観光ルートのコントロールはなかなか難しいところがあるが、県内各地での観光を終えて最終的に八代で回遊する時間をつくるということに関し、効果的ではないかと考えている。あわせて、昨年、クルーズ船客寄港時の八代宮の閉門が全国放送で放映されたことがあったが、これについても市長、副市長のお力添えで、開門をいただく準備を進めている。DMOにおいては、きびっとツアーなど仕掛けを作っているところで、まだ成果が出ていない部分もあるが、平成32年度の目標年度に向けて、着々と準備を進めているところであり、現状を報告させていただいた。

○会長：担当部局から補足説明等はないか。

●経済文化交流部：クルーズ船に伴う事業に関しては、昨年、国際クルーズ拠点に関して熊本県とRCI社が協定を締結された。国はクルーズ船受入れのための岸壁整備、県はターミナルと駐車場の整備を行う。市においては、副市長、企画振興部を筆頭に庁内で協議を行い、先ほど委員にご紹介いただいた「くまなんスクエア」「くまモンストリート」を含め、ハード・ソフト20ぐらいの事業を2020年までに実施する計画をまとめた。

また、KPIの外国人観光客数については、宿泊者をカウントしたものであり、船内で宿泊するクルーズ船客を含まないものであるが、事業開始前約6600人であったものが熊本地震後に4000人台まで2000人程度に減っている。地震前までは、市内のホテルに韓国から毎年2500人ぐらいの宿泊があっていたが、それが地震後ゼロになったという経緯がある。今月初めに私とDMOの職員とで韓国釜山の旅行会社5社への営業に行った際に、その件をお伺いし、お話をしたところ、八代への宿泊を再度考えていただけることになった。先週3月17日には韓国の旅行会社約20社が九州

内を視察する際に、八代に宿泊していただいた。その際、観光資源の体験や案内や、キャバレー白馬への案内などをさせていただいたところ、早速、数社に非常に興味を持っていただき、本年中にツアーを考えたいとお言葉もいただいた。インバウンド対策については、クルーズ船対応だけでなく、宿泊者向けの営業も行うなど、個人旅行者、団体をあわせて取組を進めてまいりたいと考えている。

○委員：1点目、農産物の輸出に関して、八代の農産物は素材が良く、国内で捌けてしまうため輸出を推進しようとしても量が伸びないことや、冷蔵設備等のハード整備が必要となるなど、輸出にはさまざまな課題があるとの話を伺っているが、輸出の実証実験の成果をお聞かせいただきたい。

2点目、外国人観光客について、SNSを使って、メジャーではない場所を訪れる個人の外国人観光客が増えており、そのような個人客は消費額が多い傾向がある。ツールの一つとしての提案であるが、各都市でアイリッシュパブ、スタンドバーなどが外国人観光客で賑わっているのを目にする。そういったものを1箇所つくったら、個人の外国人観光客を呼込むツールとなるのではないかと。ヒントとして紹介させていただいた。

3点目、フードバレー関係で、6次産業化において生産から販売までの総合的なマネジメント力が不足しているとの課題が記載してある。県では、プロフェッショナル人材誘致事業というものがあり、例えば、大手百貨店のバイヤーをされていた方をスカウトして、6ヶ月から1年働いていただくというもの。こういった制度を利用されてはどうか。

4点目、八代市・氷川町・芦北町ブランド推進事業で実施を予定されている県民向けCMに関連してだが、県北の人は、全国花火大会と妙見祭ぐらいでしか八代に来たことがない。CMを作るのであれば、県内の他地域にないものを題材としたほうが良い。例えば、県北は干潟の海しかないが、八代には港、夕日と海というすばらしいツールがある。

5点目、インターンシップ推進事業の評価指標のうち、高校等卒業者の八代圏域内企業への就職者数について、144人という数字が多いのか少ないのか分からないので、就職者数の総数を書いていただくとありがたい。

6点目、インターンシップ推進事業の評価指標のうち、18～22歳の若年者の八代圏域への定着率については、92%という数値はとても高いと思う。これは、市内に住みながら、市外の企業に通っている人が多いのではないかと推察。この事業が八代圏域内での就職を目指すのであれば、圏域内就職率などの指標が必要ではないかと思う。

7点目、コミュニティビジネスによるしごと創生・地域活性化プロジェクトについて、イベント交流施設を利用した「食処さかもと鮎やな」の年間を通じた事業展開について、坂本住民自治協議会が主になって企画されてるとは思うが、市としてのアイデアがあれば教えていただきたい。

○会長：フードバレー関連2点について、農林水産部から説明をお願いします。

●農林水産部：1点目、輸出実証実験については、JA、氷川町と連携して香港へトマトの輸送実験を継続して行っておりますが、全般的な輸出に係ることについてお話をさせていただきたいと思う。晩白柚も香港に輸出し販売促進を行っているが、荷傷みがあるためロスも含めて持ち込みをしている。生鮮品については、どれだけのロスが出るか予測が難しく、さらには関税の問題があったり、食品の傷み具合により衛生局から指摘があったこともあり、外国にそのまま品質を維持して持ち込む難しさを実感したところである。また、委員ご指摘のとおり、八代のトマトは市場を中心に取引を行われており、国内需要が多く、生産者においては全量を市場に出荷というところが多い状況である。しかしながら、今後、少子化・人口減少が進んでいくので、国内需要の目減りが予想される。新たな販路を海外に求める有効なことであるので、実証実験で得たデータ、消費者の意見・ニーズ等を踏まえ

ながら、引き続き進めていきたいと考えている。

次に、ご紹介いただいた県のプロフェッショナル人材誘致事業の制度について、私どもは海外輸出、商品開発等は素人であり、市でもアドバイザーを委託して進めているところであるが、多くの方の意見・知識等を活かしていきたいと考えているので、ご紹介いただいた制度も積極的に活用について検討をしていきたいと思う。

○会長：観光、インターンシップ関連について、経済文化交流部から説明をお願いします。

●経済文化交流部：F I T、個人海外旅行客について、八代に泊まっていただけてお金を落としていただくということも考えていかなければならないということで、DMOと連携して、毎年、どこかの国にターゲットを絞り、香港、タイ、台湾、韓国などアジア圏域の国の旅行博などに、熊本県とも連携して参加し、PRに努めているところである。また、ツアーを作られる旅行会社の方を案内、いわゆるファミトリップを行い、八代市で体験や食事をしていただいたり、SNSやブログを書かれる方を案内して、SNSやブログに載せていただくということも行っている。DMOも発足したばかりで右肩上がりというわけにはいかないが、継続して何度も営業に行ったり、来ていただいたりということも必要ではないかと思う。委員におかれては、アイリッシュパブ等のアイデアやご意見をお持ちいただいているので、今後も観光部局と一緒に、定期的に会合をさせていただいて、連携させていただければと思う。

八代市・氷川町・芦北町ブランド推進事業について、夕日のアイデアも素晴らしいと思う。最近自治体がY o u t u b eにCM・イメージビデオの掲載をしているので、そのようなものも考えていきたい。

高校等卒業者の八代圏域内企業への就職者数について、過去3年間の高校生の就職状況においては、平成26年度の就職者は401人、うち管内就職は120人で全体の約30%。27年度は372人中95人で25.5%、平成28年度は360人中103人で28.6%という状況であるので、大体25~30%が八代管内に就職しているという状況である。指標では144人と記載しているが、約100人が高校生、残り40人ぐらいが短大・高専生等というイメージで考えてもらえればと思う。

18~22歳の若年者の八代圏域への定着率については、ご指摘のとおり住民基本台帳による数値であるため、市外に通勤している方も含まれている。

○会長：「食処さかもと鮎やな」の年間を通じた事業展開の市のアイデアについて、事務局で把握しているか。

●事務局：年間を通じた事業展開のアイデアについては、「一般社団法人さかもと」を主体に、坂本支所地域振興課が協議等に入っているところであるが、冷凍販売など投資が絡む話が出ていたものの、現時点では市で予算措置を行うものについては予定されていない。

○会長：坂本支所に聞いたところでは、年間を通じた事業展開として、鮎の養殖やジビエなど現在検討しているところであるので、委員からもアイデアがあればぜひお知らせいただきたい。

○委員：先ほど夕日と海の話が出たが、夕日と海をコンセプトにしたラジオCMを流しているウエスタンマリーナにある料理店が繁盛しているようなので、夕日と海はいいかもしれない。

U I J ターンについて、ハローワークが大都市圏にいる人達に八代管内の仕事をどうやってPRしてよいか悩まれていた。FMのインターネットサイマル放送を紹介したところ、検討をされるとのことであった。また、情報紙「かじゅめる」のQRコードをスマホで撮っていただくとインターネットサイマル放送を起動できるようになっているため、「かじゅめる」を東京の銀座館に置いていただくようにした。U I J ターンについて、八代市外でのPRは説明会、相談会以外で常時行っているもの

があれば、FMやつしろで紹介をしていきたいので、お知らせいただきたい。FMやつしろではフェイスブックでの情報発信も行っているが、全国から“いいね”がある。SNSの利用は非常に大事であると思う。

次に、クルーズ船に関して、鹿児島の方にシフトして、八代港への寄港が減っているという情報を聞いたが傾向と対策を伺いたい。

それから、トマトについて、市場にも出せるようなものも含めて廃棄が数トンあると聞いた。勿体ないと思うので、県南フードバレー構想の中で、トマトの廃棄をなるべく減らすような利活用のアイデア等があればお聞かせいただきたい。

○会長：U I J ターンとクルーズ船に関しては、経済文化交流部から願います。

●経済文化交流部：U I J ターンについては、昨年、八代圏域雇用促進センターを設立し、インターンシップを中心として事業活動を行っている。また、移住定住施策を担当する企画政策課と協力し、主に関東でのU I J ターンの相談会には定期的に出ている。インターネットサイマル放送やSNSでの発信については、八代圏域雇用促進センターで「HRCY（フレッシュ）通信」というものをつくり、インターンシップを行う企業の紹介などを記事にし、冊子やアプリでの発信を行うようにしているので、FMやつしろにも可能な部分でご協力をお願いしたい。来年度からは、八代市内の高校生、短大生等のインターンシップだけでなく、八代出身で県外に出ている方に八代の企業を紹介し、1ヵ月程度のインターンシップを体験してもらい、Uターンに繋げる制度を考えているところであるので、情報発信のご協力をいただければありがたい。

クルーズ船が鹿児島にシフトしているとお話については、現時点では八代港の寄港数を減らすというような話は正式にいただいてない状況であるので、今後もRCI社と連携をさせていただき、受入れ、おもてなしの体制を整えていきたいと考えている。

○会長：トマトの廃棄については、農林水産部から願います。

●農林水産部：市場に出荷できない規格外のトマトが廃棄されているが、確かに勿体ないということもある。それらの活用については、事業者において、ドライトマトやケチャップなどの商品開発がされており、市としても支援をしているところ。生産者やJAとも協議をしながらということになるが、加工をして採算ベースに乗るようであれば、商品化の価値も出てくる。意見交換をしながら、市としても事業者に対する支援を行ってまいりたい。

○会長：JAからのご意見等はあるか。

○委員：廃棄トマトについては、今説明があったように、ドライトマトやケチャップとして利用している。ただ、管内全体で500haという規模がある。生産者としても利活用のために取りに来ていただければ協力されると思うが、廃棄トマトの利活用について採算が合うか合わないかは別にして、人手不足で外国人実習生を入れている中で、労働の問題として厳しいのではないかという現状がある。

それから、先ほど輸出の話があったが、JAとしてもトマト、晩白柚、新高梨の輸出を行っている。問題点の共有をさせていただきたい。まず、労働ビザの問題がある。晩白柚について香港での販促を行っているが、生産者が現地に行っても、労働ビザがないため、皮を剥く、客に商品を勧めるなどの行為ができない。そのため、お客の反応も鈍い状況である。次に、時期の問題である。晩白柚、新高梨については、中華圏で春節には丸くて黄色い大きな物を贈答品や飾り物とする慣習があり、それに合わせて輸出を行っている。しかし、春節は旧暦によるため、年によって時期が変わり、晩白柚が熟れる前にその時期を迎える場合がある。次に、輸出相手国の法令の問題がある。例えば、梨を香港に輸出する場合、香港のトレーサビリティ法により使える農薬が制限される。このように、輸出に

についてはさまざまな問題があるので、ご理解いただき、ご協議をお願いしたい。

- 会長：まだご発言いただいている委員のご意見を伺いたい。
- 委員：商工会においては、クルーズ船対応について協議を行っているところであるが、周辺部の事業者がどのように関わっていくのか、何を目的に商売を行っていくのかなど、まずは勉強会が必要であると考えている。そこで、市からクルーズ船に関する説明に来ていただく等ご協力いただけるか。商工会としても、クルーズ船に肖りたい、乗り遅れないようにしたいというのが本心であり、よろしく願います。
- 会長：委員がおっしゃったのは、クルーズ船が来ることによって、市全域に経済的な効果が出てほしいということかと思う。これには、行政の努力、事業者の努力が必要であるが、この点の方向性について、経済文化交流部から説明をお願いしたい。
- 経済文化交流部：クルーズ船に関しては、民間、行政問わず皆様と一緒にやって対応していかなければならないということを基本として考えている。昨年、民間の方でクマモトマリーンインクという会社が設立され、クルーズ船への飲食品をメインとした供給を目的とするものであり、納品するための説明会も先月、今月と2回ほど開催されている。具体的に事業をされたいということであれば、クマモトマリーンインクにご相談に行かれればと思う。また、商工会で勉強会をされたいということであれば、経済文化交流部から説明に伺うこともできるので、お気軽にご相談いただきたい。
- 会長：クマモトマリーンインクへの納入のほか、クルーズ船客に直接販売するという方法もある。その前提として、お客様がどう流れているのか、どのくらい遣うのか、何がほしいのかなど現状を踏まえて、対策を出す必要があるので、市はもとより、DMOからも商工会への情報提供、協力をお願いする。
- 委員：クルーズ船客への対応は、なかなか難しいところもあり、DMOとしてもまだ勉強しているところである。直接来て購入していただくというのはまだまだ知恵を絞らなければならないが、間接的には、先ほどご紹介のあったクマモトマリーンインクを通じた納入や、くまなんスクエアを中心としたアーケードへの出店をいただく等、何らかの方法はあるかと思うので、お話をしながら行っていければと思う。

補足であるが、FITに対する取組みについて、平成30年度に国土交通省の船旅活性化事業と連携をして、上天草市に高速船を出す計画をしている。20数回の実証実験ができると考えている。天草の崎津集落は、来年度のユネスコ登録に向けた動きがあり、三角西港との連携等を目的に、2月に宇城天草観光連盟が発足している。DMOとしても、天草までの一つの動線として、八代の魅力を発信することを考えていたため、早急に案を練らなければならないと思う。周りに宝物がいっぱいあるわけで、それをどう商品化していくかということであり、FITに関しては、(株)くまもとDMCと共同で情報発信をしていこうと計画をしているところである。その中に、FITの来訪が多い東陽、泉について更に来ていただくような仕掛けをしていきたい。

クルーズ船が鹿児島に流れているのではないかということについて、実はその傾向はある。鹿児島では専用岸壁を造る等かなり力を入れておられる。また、長崎、博多、八代、鹿児島を比較した場合、魅力があるのは向こうであろうと思う。八代もいかにして魅力をつくるかが重要である。ただし、実態を申し上げますと、現在の八代港については、物流港であることからクルーズ船と貨物船がバッティングしたときには貨物船を優先しており、どちらかという八代には来ないということではなく、こちらからお断りをしている状況があり、結果として、去年が60数艇、今年が40数艇と減っている。平成32年にクルーズ船専用岸壁が完成すれば、その問題はなくなるので、スムーズに行くのではな

いかと考えている。

- 委員：クルーズ船客が日中の7～8時間の滞在時間に、どのように流れているかデータがあるか。熊本・阿蘇方面が多く、八代にはほとんどいないのではないかと思うがどうか。
- 委員：クルーズ船には4,000人ぐらいの乗客があり、そのうち3,500人は一回きりのビザで入国される。一回きりのビザには保証人、身元引受人が必要であり、その保証人には旅行会社になる。中連協という旅行会社のグループがあり、ここが1,000人程度引き受けており、バス約20台を運行するが、ミステリーツアーのような状態で乗客も降りるまで行き先が分からないという状況である。八代に限った問題ではなく、ここのコントロールが非常に難しい。今後の希望としては、残りの500人はFITであり自由に動けるので、この方々をどう取り込んでいくかというのが重要である。また、先ほど申し上げたが、3,500人の方々も最終的には八代に戻って来られるので、クルーズ船への乗船前に八代を回遊していただくため、くまなんスクエア等の設置を行うこととしている。旅行会社が組む行程は、免税店で消費をさせるようなシステムで、ほとんどが中国にお金が落ちるようになってきている。しかし、最近では、免税店で消費をせず、近くのコンビニなどに寄る人も増えており、中国の方の消費動向も変わってきているので、しっかりと見ながら提案等を進めてまいりたい。
- 委員：専用岸壁・施設ができるまでに、各地域にある資源を発掘し、体験ツアーを組むような取組みを今から準備して実施していくことが必要であると思う。
- 委員：今ご意見をいただいたような取組みを現在行っている。先ほど説明した500人については別の旅行会社を取り扱うため、今そちらへの営業をかけているところであり、昨年作った商品の提案等を行うなど、準備は着々と進めている。
- 委員：クルーズ船について、費用対効果がどうなのかを見つめ、将来を見越して、心でおもてなしをするということ、お客様を増やすということを着実に進めたい。
インターンシップについて、八代の若者は地元になりたいと思っている。最低でも1週間ぐらいの企業へのインターンシップをして、若者に理解をしてもらって、八代で就職してもらいたい。目先で計画をしないということが大切である。
- 会長：経済文化交流部からお願いします。
- 経済文化交流部：クルーズ船客は、バスに乗ったら他の地域に行き、八代でなかなかお金を落とさずしていただけない。そういった状況を少しでも八代に留まってくれるような取組を行っていかねばならない。それから、中国の旅行者の方だけでなく、九州に来られている韓国や東南アジア等の旅行会社に継続して営業・PRをしていく必要があると考えている。また、心からのおもてなしを念頭に、費用対効果も考えながら、計画を進めてまいりたい。
インターンシップについては、委員がおっしゃったように、一日二日では企業の良さというのはなかなか分からないので、中長期で体験していただくようなプランも考えてまいりたい。
- 会長：インターンシップ関連について、教育機関、労働関係の視点からご意見があったらお願いしたい。
- 委員：その前に、データが一切地域に発信されていない。あるいは、地域の方が正確な数字を理解されていない。例えば、各教育機関に留学生がどれだけいるのか、外国人技能実習生がどこの国から何人いるのか、20年後には介護人材が全国で30万人不足することなど、そういう基本的な情報が非常に不正確ではないかと思う。八代にクルーズ船が来て、お金が落ちなければ、かえって迷惑だという意見すら出てくるのではないか。それぞれの立場でメリットがなければ、クルーズ船に対する理解が正確でなければ、そういう話になる。情報を正確に把握して、それを提供するのには行政ではないか

と思う。福岡の苺あまおうを香港で売り出す時、県が主体となって、県と地域とJAと生産者が一体となって、県の特産物として試食会等販促を行い、それが今定着している。一方、八代のトマトや晩白柚は、県、市、JA、生産者が連携しているかすら、私は正確に理解していない。トマトをどこに、どれだけ持っていったから、売上がどれくらい上がって、農家にはこれだけ還元されたという情報が全く分からない。

○会長：行政からの基礎的なデータ、情報が足りないというのが委員の問題提起だと思う。事務局から説明をお願いします。

●事務局：委員のご指摘は、今後いろいろな事業に取り組むにあたって、データ、情報を市民の皆様と共有していく必要があるのではないかとということと理解している。委員からは、総合計画の際にもお話しをいただいております、今後、周知の方法も含め情報提供について検討してまいりたい。今回の事業については、お配りしている資料、本日の説明等を踏まえて、評価をお願いしたい。

○委員：JAにおいては、ディスクロージャー誌で情報公開をしているので見ていただきたい。また、あまおうについても認知されるまで10年掛かっている。私たちも県レベルでがんばっているのですが、よろしくお願いします。

○委員：先日関西方面に旅行に行ったが、外国人の観光客がとても多く、また、昔に比べて、日本人も含め個人旅行客が多くなった。また、京都では着物レンタルなどの体験をされているのを目にした。大きな観光地では年間を通じた来訪があるが、八代には花火、妙見祭しかないイメージであるので、年間を通じて呼込める魅力が必要ではないか。

また、市外に出て行く若者が多いということは、魅力がないから、賃金が安いからではないか。八代は中小企業が多く、労働環境問題などいろんなところに取り組まないと若者の定着には繋がらない。八代の魅力はなんなのかという根本的なものもあるのではないかと思う。

○会長：指標の動向を分析する中で、その原因をどう解決していくということは、事務局、担当部で行っていくので、よろしくお願いします。

時間となったので、これで意見交換を終了としたい。長時間のご審議感謝申し上げます。

3. 閉会

(事務局)

- ・別紙「評価票」により事業の評価をお願いしたい。事業の評価にあたっては、本日の説明、意見交換の内容も踏まえて記入いただき、4月20日までに提出いただきたい。
- ・評価票をもとに、効果検証結果をとりまとめ、市ホームページにて検証結果の公表を行う予定。
- ・次回の推進会議は、10月頃の開催を予定。6月初旬を目途に、新年度における委員の就任依頼を送付させていただくので、引き続きご協力をお願いします。